



にじいろ

「学年通信」は、生徒の皆さんが読み終わった後、必ず保護者の方に渡してください

「他者のために行動できる人に」

1 学年主任 小澤 春美

私は甲府東高校に異動してきて 7 年目になります。ここに来て最初に感動したことの一つが、生徒玄関に飾られている大きな額でした。皆さんも毎日のように目にしていると思いますが、その内容まで読んだことがある人はどれくらいいるのでしょうか。その額には、本校が掲げる「育てたい生徒像」が記されています。その中に、「**他者を尊重し思いやり他者のために動こうとする生徒**」という言葉があります。この言葉に触れ、素敵だなと感動したのを覚えています。

さて、ここで皆さんに質問です。皆さんは、他者のために行動することができますか？自分のことばかりを優先してはいませんか？

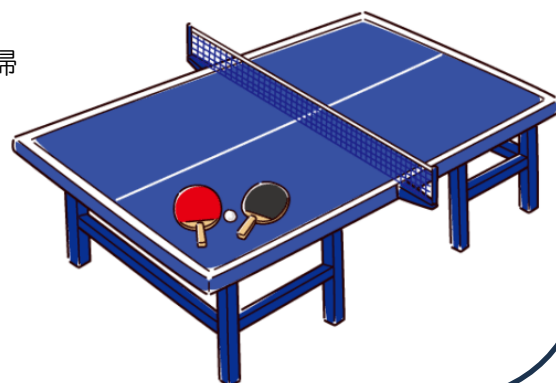
先日、とても残念なことがありました。放課後の追試を理由に、掃除に参加しない生徒がいたのです。また、「部活動に遅れたくない」「早く帰りたい」などの理由で普段から掃除をしない人もいます。自分のためには一生懸命になれるのに、他者のことになると力の出し惜しみをしてしまう。それは、本校の「育てたい生徒像」からは最も遠い行動ではないでしょうか。

私は、皆さんの日頃の行動は必ず誰かが見ていると思っています。それが神様なのか仏様なのかお天道様なのかは分かりません。しかし、必ず誰かが見えています。長年多くの卒業生を見てきて感じることは、他者のために力を尽くせる生徒ほど周囲から信頼され、その生徒自身も大きく成長するということです。そのような生徒は、結果として進路実現にもつながっていきます。反対に、自分の都合ばかりを優先する人は、なかなか良い結果に結びつかないことが多いのです。

日々の小さな行動の積み重ねが、その人の人間性をつくり、やがて将来を形づくるのだと私は考えます。さあ、これを読んだ皆さんは、今日からどのような行動を取りますか？

【10月の主な行事予定】

- 10月1日(木) 後期開始, 服装調整期間(～11/30)
- 2日(金) ▲上カセット
- 3日(土) サタチャレ
- 6日(火) ▲上カセット
- 7日(水) ⑤⑥授業公開, 神無月文化祭(放課後) ※午前①～④5短・昼 SHR・清掃
- 15日(木) ▼下カセット
- 16日(金) ⑤薬物乱用防止教室
- 19日(月) ⑥⑦東高先輩職業人の話 ※5校時後 清掃
- 20日(火) PTA 登校時マナーアップ運動(1年)
- 22日(木) SOW(1年 東京大学訪問)
- 23日(金) ▲上カセット
- 28日(水) 植花作業(放課後)
- 29日(木) ▲上カセット
- 31日(土) 進研総合学力テスト



【1 学年リレー通信】

「思いがけない出会い」

6組担任 米山 史洋

あっという間に、6 組担任までバトンがまわってきましたね。正直、私には土屋先生のような多才で人生を楽しんだ経験も、上原先生のように皆さんのことを考えた黒部ダムのおんちくを伝えることもできません。そう悩んでいたら、猪股先生から「9 月の終わりなら、文理選択の話はどうですか？」と勧められました。これまでに関わってきた生徒の話もありますが、今回は私の文理選択の話をさせていただけたらと思います。この話が、皆さんにどのくらいお役に立てるのかはわかりません。ですが、読んでくださっている皆さんに感じていただけることが少しでもあれば幸いと思い、米山の高校時代の話を書いていこうと思います。

高校 1 年生の 11 月、私は理系で日本史を選択することを希望していました。その理由は単純で、私は理科と日本史が好きだったからです。当時の私の母校のカリキュラムでは、その選択が可能でした。ところが、理系で日本史の選択を希望していたのは、私1人だけでした。そのため、担任の先生に職員室に呼ばれました。

担任の先生「米山君、理系で日本史を選択するメリットはなにもないよ。進路希望がはっきりしていないのなら、なおさら地理を選択した方が良いですよ。」

当時の米山「自分は、弥生時代の農耕文化も、武士がなぜ必要とされたのかも、もっと学びたいです。ぜひ、日本史を履修させてください。」

担任の先生「君ひとりのために開講することはできないよ。」

当時の米山「そこを何とか、お願いします。」(土下座)

職員室の床に正座をして、このやり取りを約1時間繰り返しました(私が教師になってから、この話を当時の担任の先生に話したところ、「全然記憶にない」と言われたのは少しだけショックでした)。

当然私は日本史を選択できず、地理を選択することになりました。当初は納得できず、勉強のモチベーションも全く上がりませんでした。ところが、地理の勉強を始めると、地形や気候などの自然現象が農業や工業など人々の生活に大きく影響を与えることに驚きました。とても面白く自分自身の視野が広がっていく感覚を覚えしました。その結果、私は大学でも地理学を専攻し、その魅力にどっぷりとハマってしまい、地理学者を目指していた時期もありました。(そんな私が、なぜ物理を好きになり、高校の教師になったのか。それはまた別の機会に。)

iPS 細胞を発見した京都大学の山中伸弥教授は、元々、整形外科医を目指していたそうです。ところが、山中教授は不器用なために手術が苦手でした。そのため、臨床医の道を断念したそうです。その挫折の経験から、基礎研究の道に進み、そこで才能が発揮され、iPS 細胞の発見に至りました。

私の地理学との出会いと山中教授の iPS 細胞の発見を一緒にすることはできません。しかし、学問との出会いは本当にあるとき突然訪れるのかもしれません。やりたいことが決まっていなくても、決まっていなくても目の前のことを知ろうとすることが大切です。つまり、大事なことは、目の前のことにベストを尽くし、何でも挑戦してみることなのかもしれません。もちろん、学問との出会いだけではないと思っています。甲府東高校で1年生の皆さんや先生方に出会うことができたことに、私は非常に感謝しています。これからも、思いがけない出会いを一緒に楽しんでいきましょう。